

発行 小田原市栄町2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳

読書の秋 芸術の秋 スポーツの秋 食欲の秋。 何をするのにもいい季節になりました。新九郎でも見ごたえある展覧会が続き、連日多くのお客様でにぎわっています。今月もアフター6に素敵なイベントが予定されています。秋の夜長、どうぞお気軽にご参加ください。先日、通りがかりの小学校で運動会をやっていました。なんとグラウンドは芝生でした。運動場が芝生だったらいいなあといっていた子供たちの夢が現実になっていることに驚きました。これをずっと美しく維持して行くには PTA のご協力が必要ですが、気持ちの良い緑の芝生で子供たちはどんなことをして楽しむのでしょうか。小田原の街も少しずつ市民の手で変わり始めていることを感じます。

新九郎 10月の展覧会のご案内



会 期	展 覧 会 名	見 どころ
9月30日(水)~10月5日(月)	堀 丁 介 展	自分を自然において絵を描いてきましたという作家の長年描きためてきた作品の初個展。さまざまなモチーフにチャレンジする渾身の油彩 40 点を展示します。
10月7日(水)~12日(月) 10日(土)	すどう美術館コレクション展 ガイアシンフォニー上映会 18:30~	東京銀座から小田原に来て3年。小田急線富水駅徒歩 5 分にあるギャラリー。館長秘蔵の菅創吉他現代美術のコレクションを展示します。館長すどう一郎さんの講演会も予定されています。10月10日(土) 14時から 入場無料
10月14日(水)~19日(月) 16日(金) 17日(土)	第 1 2 回「湘展」 新九郎デッサン会 18:15 朗読とギター弾き語り 18:30	1998年(平成10年)に第1回展を開催し今年、12年を迎えました。具象・抽象、静物、スケッチ、人物、モチーフも素材も多様です。一人一人の本来持っている力が引き出された個性のある作品が展示されます。
10月21日(水)~26日(月)	フォト∞ムゲン写真展	写真の可能性を追求し、7名の会員がテーマを持って取り組んだ作品による写真展です。風景約60点の見ごたえある写真展です。
10月28日(水)~11月2日(月)	人生遊々展	水彩・油彩・水墨画・書・絵てがみ・写真・刻字・盆栽・花・人形・陶芸・貼り絵・ちぎり絵等、旧三中三期生によるそれぞれの趣味を楽しむ作品展。豊かに年を重ねている仲間の年1回の同窓会展。

近隣、友の会会員の展覧会情報

新九郎友の会 オータムプレゼンツ

朗読とギター弾き語りて綴る白秋の世界

—こどもの心 ことばの魔法—

日 時 : 10月17日(土) 18:30~(18時開場)

場 所 : ギャラリー新九郎

入場料 : 500円(茶菓付き)

出演 朗読 いま くれげ子

弾き語り 瀬戸克信

秋の夜長を、美しいギターの調べとゆったりと心に染み
いる朗読でお楽しみください。

出演は新九郎では2回目のご出演となるお二人。

数々の名曲とともに「北原白秋の世界」が広がります。

陶和会作品展	10月1日~5日	アオキ画廊(2F)
第32回秀月会書画展	10月9日~12日	アオキ画廊(1F)
第13回 忍のぐ箱展	10月10日~14日	アオキ画廊(2F)
諸星和夫とその教室の仲間たち展	10月15日~19日	アオキ画廊(1・2F)
第68回 松永義夫日本画展	9月30日~10月4日	飛鳥画廊
グループ・アトリエ展	10月21日~26日	お堀端画廊
第74回 西湘展	10月21日~25日	小田原市民会館
鉄道資料本展	10月8日~20日	寄りあい処こうづ14休
後藤雅樹展	9月26日~10月11日	すどう美術館月火休み
橋本樓々油彩ほとけの世界展	9月30日~10月5日	ギャラリーぜん(秦野)
第1回 大磯 湘 絵画 展	10月4日~20日	大磯町立図書館2F
第61回 湯河原美術展	10月6日~11日	湯河原町立図書館3F
白石洋子海外旅の写生展	10月25日~11月3日	大磯ちいさな美術館
第40回 世紀展	10月22日~31日	小田原報徳博物館

ようこそ平塚美術館 平塚美術館学芸員 勝山 滋

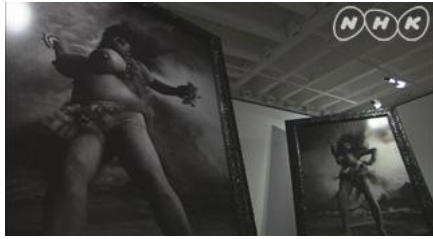
平塚市美術館では「カーデザインの歴史」展を10月3日から11月29日まで開催。日産の協力で、フェアレディZ、スカイラインなどの実車やデザイン画、クレイモデルを展示し、カーデザインの歴史と将来を展望します。

写真は、ダットサン 1121 型(1955年) 水彩 デザイン画です。

欧米にくらべ、日本では水彩が多用された歴史があります。作者は当時の造形課長の佐藤章蔵。後年、ソニーのデザイナーとしても活躍した人物です。日本の国情や国民性にあったデザインが評価され、毎日工業デザイン賞を受賞する榮譽に浴しました。



ダットサン 1121 型(1955年) 水彩 デザイン画



いつからだろう。もう30年近く日曜の朝9時 ゆっくりと観るテレビ番組がある。

「日曜美術館」だ。この番組を見て出かけて行った展覧会は数知れない。いつか行ってみたいと憧れる美術館もまた多い。最近行った「やなぎみわ展」(国立国際美術館)も、その一つだ。想像以上のインパクト。旬の作家の今を見ることのできた贅沢な展覧会だった。

やなぎみわは、現在イタリアで開催中の第53回ベネチア・ビエンナーレの日本代表として今年一番注目されているアーティストであった。今年40歳になるというやなぎは、若いころの草間弥生を思わせる魅力あふれる容姿と溢れんばかりの感受性が画面から伝わった。作品とともにその人間にも大いに興味があった。番組では、ベネチアビエンナーレの日本館のメイン展示となった作品「婆々娘々」の制作風景と京都でのプライベートな一面を紹介していた。

やなぎの作品に登場するモデルは、やなぎ自身が探してきた一般人を使っている撮影だった。人生経験を重ねた個性ある顔。深いしわやたるみを持つ70代の女性に、それを強調するかのようさらに身体を作り上げていく。老の象徴としてのしわやたるみは、身体に不釣り合い

な豊かな乳房を付けることで若さと対比させていた。40代と思われるモデルは、生命力に満ちた豊満な身体にさらにデフォルメされた乳房を付け、風の吹く荒野に立ち向かい笑っていた。

画面では、さりげない言葉をかけながら、素人のモデルをリラックスさせ自分の狙う写真を撮っていくアーティストとしてのやなぎみわの視線と、それをサポートするスタッフの動きが緊張感を持って映し出されていた。人生を重ねたからこそにじむ味わいのあるモデルたちの表情、後ろを振り向かず何事もなかったかのようなたくましい姿で突き進もうとする姿が、女性のたくましさ・おほかささと重なって迫ってきた。

昨年出産をし1歳半になる子供の母となったやなぎは、いまだかつてなかった多忙極める生活をしていると、子供を抱きながら傍らの夫と目を合わせて笑っていた。さらに、子育てを通し自分の中にずいぶん変化が生まれたとも言いながら母親の表情になった顔が美しかった。風に向かう女性には母の強さも込められているのかもしれない。

国際美術館は、中の島という大阪の街のど真ん中に位置していた。モニュメントのようなモダンな外観の地下が美術館になっていて博物館との同居だった。東京の美術館の静かで落ち着いた非日常的な雰囲気とは異なり、昔東映マンガ祭りに子供を連れていった時の映画館の感じがする場内は、大阪そのものなのかもしれないとその違いも新鮮だった。メインのループル展との同時開催のため、「やなぎみわ展」のみ見たいという私たちも、1機しかないエスカレーターの前で小1時間待たされた。やなぎのみ

(参考資料 NHK 日曜美術館 HP・やなぎみわ図録)

の鑑賞希望者には大変不親切な案内で、これも東京ではありえないことだった。

やなぎの会場はすいていて、ゆっくりと回ることができた。

「マイグランドマザーズ」作品の横には詩があった。説明的ではないが、写真の理解が深まる。若い女性の50年後をビジュアル化したという作品は技術の確かさと絵画的な画像に目を奪われた。美術作家の意味がわかる。さまざまな老女に出会えると同時に人生の可能性と楽しさが伝わる作品であった。

一転してモノクロの「フェアリーテール」は、少女の体を借りて、老いと若さが、一人の女性のなかでさえこともなく入れ替わるものであることをあらわにしていた。グリムやアンデルセンの童話をモチーフにしたのか、子供がモデルとなっている作品は、観る者をドキッとさせる。子供だけが持つ残酷さとはかなさが、作品には見え隠れしていた。そういえば、会場には顔の小さい手足の長い少女がやけに目についた。作品モデルを務めた子供なのだろうか。感性あふれる子供たちの目に、この作品はどう映ったのだろうか。ぜひ聞いてみたいことだった。最後の部屋にやっと番組で見た作品が展示されていた。高さ4メートルの巨大な女性の肖像写真は、写真たてに収まりすぎない存在感で置かれていた。いきなり小さなことでよくよくなるなど一蹴された気がして心地よい。部屋の片隅には小ぶりの黒テントが張られ、なかを覗き込むように観客は床にしゃがんでなかの画像を追う。この参加型も新しい。

女性であることをいやが上にも意識させられた。外に出ると、背筋を伸ばして颯爽と歩きたくなる単純な自分がいた。

現代美術版画展

ロビンソン百貨店 10 周年記念のイベントとして 伊勢治書店・ギャラリー新九郎が ロビンソン1階のキャニオンにて 世界の第一線で活躍する現代美術作品の展覧会を開催します。小品から美術館級の作品まで 地元版画工房で制作した作品を版元直売で販売するお得な機会です。また期間中、シルクスクリーンの版画ワークショップも、体験いただけます。是非 遊びに来てください。また この機会にお気に入りの1点を探してください。

■平成 21 年 10 月 22 日 (木) ~ 26 日 (月)

■ロビンソン百貨店 1F キャニオン広場

出品作家

奈良美智・オノサトシノブ

草間彌生・ナムジュンパイク

饅頭・村上隆・

横尾忠則 他

ワークショップのご案内

10月24日(土) 25日(日) 13時から15時



- ◆ 9月の展示は見ごたえのある新作が多く、皆さまの意気込みの伝わる展示ばかりでした。仕事とはいえ、こうした作品に出会えることの幸せと、パワーをいただけることに感謝です。
- ◆ アフター6で「生活数学セッション」の講演会を開きました。講師の岡部進さんは友の会会員長南康子さんの幼馴染です。「数学はアート」だとプロデュースしている前田洋子さんは本職はギャラリストなので新九郎で講演会ができたことを喜んでくださいました。
- ◆ 小田原映画祭のショートフィルムコンテスト入選作品の上映会をやりました。私は「泥棒日記」が気に入りました。鉄仮面を被った奥さんがたまらなく可愛いです。「Hey! That's My Car」フランスを舞台にした自動車泥棒の映画、7分と短編ですが小粋です。10月4日(日) コロナシネマワールドで作家を迎えて上映会があります。グランプリをこの目で見届けたいです。
- ◆ 芸術の秋。今月の新九郎は講演会、朗読会、映画会と展覧会以外にもお楽しみいただきたい企画満載です。お誘い合わせておいで下さい。お待ちしております。☺